



## 第2回九州女子ミッドアマチュア選手権競技 第2回九州女子シニア選手権競技

競技報告 (2014/9/4)

写真と記事 : M. Kikutake

### 晴れの優勝者

ミッドアマ **渡辺恵理** (チェリー宇土)

シニア **福井和子** (ブリヂストン)



両選手権は4日、福岡県宮若市のザ・クラシックゴルフ倶楽部(5915坪、パー72)で行われ、女子ミッドアマチュアは5オーバー、77で回った32歳の渡辺恵理(チェリー宇土)が初優勝を飾った。

女子シニアは9オーバー、81のスコアで67歳のベテラン、福井和子(ブリヂストン)が優勝した。福井は2002年日本女子シニアの優勝者で、1992年九州女子選手権覇者。

前夜来の雨が降り続き、激しくなった午前中に40分間の中断。午後からは雨は上がったものの、悪コンディションの中での競技となった。(天候は雨、気温23度、東の風1.5m=正午現在)

#### 渡辺恵理は5オーバーの77

##### 後続に2打差をつけての栄冠

30歳以上が対象の女子ミッドアマは75人(欠場1人)が出場。渡辺恵理は出だしボギーが先行。雨による中断後の3番からも2ボギー、1ダブルボギーと3ホールで4打落とすなどスコアを乱したが、6番以後立ち直り、最終的に

は77とまとめた。

2打差の2位タイには前年優勝の高木真理(西戸崎シーサイド、46歳)のほか牛島ハイディ(志摩シーサイド、41歳)、松尾彩(大村湾、33歳)、松尾賢子(北方、50歳)の4人。さらに1打差の6位タイには平田雪恵(久留米、51歳)、若松和代(大隅、45歳)の2人だった。

この試合の結果、上位8位タイまでの9人が第19回日本女子ミッドアマチュア選手権(11月20~21日、広島県・リージャスクレストGC)への出場権を得た。

#### シニアはベテラン福井和子が

##### 9オーバー、81で“復活”のV

50歳以上の女子シニアは70人(欠場5人)が出場。福井は最終組で、雨も峠を越えた中でのスタートだったが、前半4ボギーの40としたあと、後半も3ボギー、1ダブルボギーの41とまとめ、先行組を飛び越えて勝利を手にした。2打差の2位タイは前年優勝の伊藤京子(志摩シーサイド、59歳)と宮城靖子(沖縄国際、51歳)の2人で、さらに1打差、84の4位に伊藤恵美子(皐月、54歳)、85の5位に菊地恭栄(若松、59歳)が



入った。

優勝した福井は来年の第23回日本女子シニア選手権（11月5～6日、富山県・呉羽CC日本海）への出場権を獲得。

また、九州女子シニア選手権は第3回の来年大会から日本女子シニア選手権の九州予選を兼ねて行われ、日本ゴルフ協会（JGA）が従来行っていたブロック予選は廃止されることになっている。



## 雨にも気持ちを切らさなかった渡辺恵理

ミッドアマの部は79で並ぶ4人によるプレーオフか、と思われた矢先、77のスコアで上がってきて優勝をさらったのが渡辺恵理。優勝が決まって発した言葉は、「うっそ～、どうしよう…」だった。

雨の中のスタート。いきなり1番（パー5）で4オン、2パットのボギー。2番でグリーン周りの20ヤードからチップインバーディーとすかさず取り返した。しかし、続く3番でティーショットを放って降雨中断。再開後はボギー、ボギー、ダボと連続して気持ちが切れかかったが、思い出したのが今年の玉名での九州女子選手権。前半39で回りながら、後半48と崩れて予選落ち。気を抜けば同じ轍を踏むことになる。「とにかく、気持ちを切らさないように気をつけていった」と振り返る。

「我慢に我慢を重ねて…」と6番からの13ホールは1バーディー、2ボギーとまとめ、首位でホールアウトした。「調子は決して良くなかったけど、悪いなりにまとめることができたかな」と渡辺だ。

熊本市の出身で、スポーツはソフトボールをしていたが、高校3年の18歳の時、「父の勧めで」とゴルフを始めた。ジュニアの時期からトップを目指して、というわけではないものの、ハンディキャップは現在5.0。病院事務の仕事をしながら、競技にも出てゴルフを楽しむ生活だという。

昨年は九州3位で出場した日本女子ミッドアマでは調子が出ずに71位タイに終わった。今年は、「九州優勝だし、恥ずかしくないプレーを心掛けたい」と話してくれた。

（写真はミッドアマ競技風景）



**2位タイの高木真理**（連覇は成らず） 雨の中での79のスコアはまずまずのゴルフだったと思う。（この1年

は）体力をつけることやショットを安定させることなどを考えて、体のケアやバランス調整などを指導してくれるスポーツ施設に通い、インナーマッスルを鍛えた。おかげで飛距離が伸びた。

## 福井和子はベテランの味、目標は「70歳でのメダル」

最終組でラウンドした福井和子は、「雨のピークは過ぎていたけど、普段通りのゴルフをする、ということに心がけたのがよかったのかな」と表情を緩めた。

コースのフェアウエーやラフはたっぷり水を含み、ランが出ない。67歳、ドライバーの平均飛距離が200ヤード程度という福井にとって、これはかなりのハンディだったろう。しかし、ドライバーはフェアウエーをキープし、アイアンショットの「アプローチも良かった」と福井。競馬で言うところの「重馬場」での9オーバー、81のラウンドは上出来だったろう。

45歳の時九州女子選手権を制し、55歳で日本女子シニア優勝。それからまた10年が過ぎたが、「私生活で忙しくゴルフに集中できなかった」といい、今では「70歳でのメダルを狙って」と目標を軌道修正。今回の九州女子シニア優勝は、そのスタートとしたいという福井だった。

**2位タイの伊藤京子**（ディフェンディングチャンピオン） 前半は雨にたたられた。アプローチ、パターともダメ。全体的にゴルフがかみ合わなかったという感じ。年々力は衰えていくばかりだし、体力維持のために自宅近くの大濠公園でのウォーキングを欠かさないようにしている。

**2位タイの宮城靖子**（初出場） 雨だし、ゆっくりと大きく振ろうと思ってラウンドした。後半はアイアンが当たりだし、寄せワンで我慢のゴルフができた。沖縄では親しい女子会の仲間と練習やコンペをしたりしている。今回はその友だちに誘われて出場した。